

国労運動を次世代へ！ 全組合員で奮闘しよう！



国労西日本

国労西日本本部

NO. 388

発行責任者 植田 重信

編集責任者 大北 真也

国労西日本HP



国労西日本

検索



TUNAGを利用中
組合員の皆さん登録しよう
登録は西日本本部または地方本部へ

第39回西日本本部大会を開催！ 一致団結して取り組もう！

国労西日本本部は、8月9日（土）国労大阪会館において第39回定期西日本本部大会を開催し、この一年間の闘いの総括を行ない、安全・安心輸送の確立、労働条件の改善、組織の拡大・強化、ローカル線の廃止反対、春闘等の諸課題について向こう一年間の闘う方針を確立しました。



（石田議長・西川副議長）

大会は大和執行副委員長の司会で開会し、代議員19名中19名の出席、執行部12名中11名の出席で大会が成立したことを確認し、議長団は議長に石田代議員（近畿）、副議長に西川代議員

（近畿）が選出され、植田執行委員長が挨拶を行い、来賓挨拶として日本共産党から堀川あきこ衆議院議員、社会民主党から京都府連合の来住文男幹事長、こくみんCOOP共済から田口課長、それぞれから挨拶を受けました。

国労本部からは宮崎中央執行委員長が出席され全国



大会の報告や情勢や組織等について報告されました。経過報告、協約・協定の締結承認、2025年度の運動方針（案）の提案を行ない、16名の代議員から発言を受け、答弁・集約を行ないました。

組織検討委員会の報告、2024年度決算報告、2025年度予算の提案、ストライキ権、役員改選等を行ない、特別決議（案）、大会宣言（案）を読み上げ、藤野執行委員長の閉会挨拶を受け、植田執行委員長の団結ガンバローで終了しました。

今大会において、長い間会計監査員の任を努めていただいた、岡出会計監査員が退任されました。長い間、お疲れ様でした！

来賓の皆様



日本共産党
堀川あきこ衆議院議員
社会民主党京都府連合
来住文男幹事長
こくみん共済COOP大阪推進本部
田口佳仁課長
国鉄労働組合中央本部
宮崎浩則執行委員長

ありがとうございました！

全体交流会を開催



大会終了後に構成員及び傍聴者で全体交流会を開催し、これからの運動への意志統一を行ない、団結を深めました！

お詫び
前号（8月1日発行 No.387号）において、役員の退任欄で「木村副委員長」が盛れていました。TUNAGやホームページは修正版を掲載済。印刷発送分は漏れた状態となっております。申し訳ございませんでした。

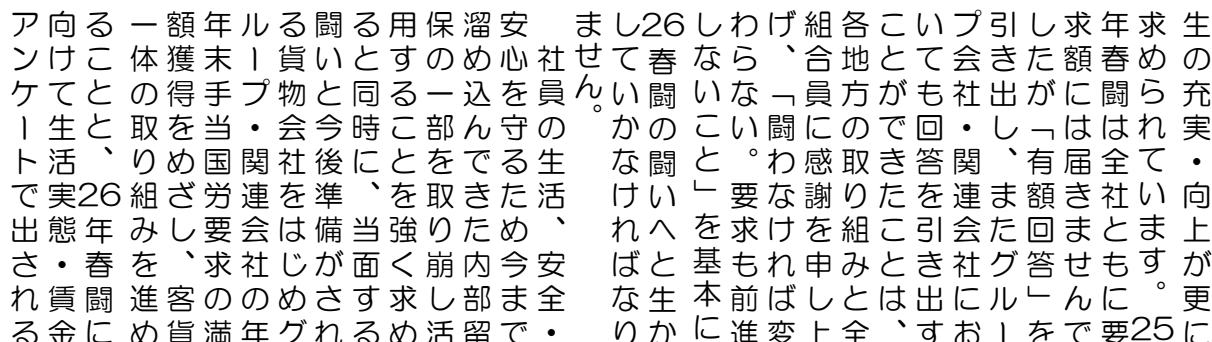


爆長865
が崎月日年1
投に9広89
下原日島月4

され、あの日から80年の節目の年であります。昨年12月にノーベル平和賞受賞された被団協の取り組みは「愚かな戦争、核兵器の恐ろしさ、過ちを二度と繰り返してはならない」とを全世界に訴え平和への大きな流れを創っています。私たち国労は、核兵器の非人道性を明らかにし「反戦・平和・平等」のために運動の継続を図るとともに、戦後50年、皮層

労働条件改善、安全輸送を守る闘いについて

ていることは明らかです。職場を基礎に国労の運動する姿が拡大への大きな条件であり、『国労の運動を見せる・知ってもらう』ためホームページと本部が進めている「ツナグ」の活用・充実を全体で図っているところであり取り組みの強化を宜しくお願いします。引き続き、取り組みの経験を学び合って、各地方から組織拡大の流れを広く大きくし、同時に次世代に国労運動の継承と運動・組織の前進に全力を上げよう。職場において世話役活動を含めた日常的な取り組み、運動の成果と課題を明確にして今後も組織強化・拡大に全力を挙げていこう。



会社が掲げる「心理的安全性」とは、まさに逆行するものと言わざるを得ません。『安全確保』の観点からしっかりと議論、検証し改善を求めていくことが大事です。ＪＲ会社が進めている業務の単位化、委託化、外注化、システム化等による要員削減、過酷な勤務実態や技術継承の欠落などしっかりと検証し、安

回答をベースに人間らしく生活していくためにいくら必要なのか、生計費原則での要求討議、要求の根拠・確立で、全国統一闘争を展開することが益々重要になっていきます。

福知山線列車事故から20年、伯備線触車事故から19年が経過、私たちは「家族や仲間を悲しませる事故を発生させない」決意を一つに『安全』への道をしつかりと進めなければなりません。そのような中、本社幹部が激しく叱責し、パワハラがあつたと第三者評価委員会



地方交通線、公共交通としての鉄道を
守るために

全に必要な要員の確保と抜本的な改善を求め運動を強化し、安全・安心の鉄道輸送の確保労働条件の改善と健康で安心して働き続けられる職場づくりをはじめる闘いを進めることが重要であります。

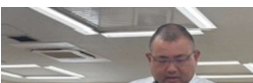
JR会社が発足し38年、分割・民営化で引き継いだJRがその使命や役割、極めて重要な社会インフラを担っていることは変わることとがあってはなりません。地方交通線の存廃は地方・地域の将来展望に関わる極めて重要なことであります。

芸備線について「再構築協議会」が設置され議論が行なわれています。国は「地域の了解なしにローカル線を廃止することはない」と示していますが、3年を目途に存廃の方針を示すとしています。国が責任を持ち、鉄道ネットワークとして地方・地域の活性化やまちづくり、日本全体の社会インフラ、生活ネットワーク、物流システムの観点から国民が安心・安全に社会生活が営めるように国の役割を果たさなければなりません。公共交通機関としての役割と鉄道の安全を守るため、労働

国民生活、平和と
民主主義、立憲主
義を守る闘いにつ
いて

組合として取り組んで行く決意です。ＪＲ西日本による地方ローカル線廃止・列車本数の削減に反対し、地域住民の移動する権利と安全・安心の公共交通の確保に向けて、本部が取り組んでいる国交省要請・政党要請、をはじめ宣伝行動・統一行動など各地方本部と連携して引き続き運動を強化するものです。

7月に行なわれた参議院選において、自民党の金権腐敗政治への怒りと社会保障制度をはじめ医療体制の問題、経済対策、外交・安全保障、復興と災害に強い基盤づくりなど自公政権に対する国民の怒りが「NO」の審判を下し、自民・公明は大きく議席を減らし、衆議院に次ぎ参議院でも過半数割れに追い込み少数与党となりました。臨時国会も短期間行なわれましたが、今後の国会運営を切り切るため野党への分断を図るなど様々な動きが想定



代議員の発言は次号掲載

されますが、国民が安心して暮らせる社会の再建が第一に求められています。私たちは、憲法破壊と国民生活無視の悪政を続ける石破自公政権と改憲勢力に對峙し、日本と世界の恒久平和を実現するために、大軍拡と改憲を許さない国民的運動をひろげ、自公政権とその補完勢力が推し進める『戦争する国づくり』や改憲の暴走を終わらせるため、反動政治にＮＯを突きつけ、憲法と平和、人権を守ることにが大変重要な時であります。

申し上げた諸課題の前進をめざし、大会の成功と全組合員の総決起を訴えると同時に全ての闘いに全力をあげる決意を申し上げます。

2025年度執行部体制

執行委員長	植田 重信	（近畿）
執行副委員長	藤野 能章	（北陸）
執行副委員長	大和 忠昭	（近畿）
書記長	大北 真也	（近畿）
執行委員	倉下 文明	（近畿）
執行委員	中本 博次	（近畿）
執行委員	伊野 活行	（近畿）
執行委員	河野 宏幸	（近畿）
執行委員	波見 健一	（近畿）
執行委員	谷澤 由紀恵	（近畿）
会計監査員	石割 嘉夫	（近畿）
会計監査員	小川 拓人	（近畿）